

# 英語学習に対する動機付けを高めるために

## 1. 動機付けのための基礎的な環境を作り出す

- ① 間違いを恐れずに話すことを勧めよう  
児童に間違いを恐れずに話すことを促し、間違いは学習の自然な一部であると思わせる。
- ② 教室環境を児童に合わせて整備しよう  
黒板、教室の壁、備品、机と椅子の配置等を工夫することによって、リラックスした雰囲気になり、児童は安心して授業に挑むことができる。

## 2. 学習開始時に動機付けを喚起する

- ③ 肯定的な価値観や態度を育成しよう  
指導者が、児童とともに英語を使って、学ぶ熱意と姿勢を見せることで、英語に対する肯定的な価値観や態度を育てる。
- ④ 教材を児童に関連の深いものにしよう  
児童の日常生活、彼らの興味・関心や体験と関連付けることで、学ぶ意味を見いだすことができる。
- ⑤ 成功期待感を高めよう  
十分な聞く活動を通して、音声に慣れ親しませるとともに、指導者が活動で求められる成功の姿をモデルとして見せることで、児童は活動の具体的な姿がイメージでき、不安が軽減されることによって、一生懸命取り組みようとする。

## 3. 動機付けを維持し保護する

- ⑥ 興味深い活動をしよう  
歌、チャンツ、ゲームなど、単調な活動にならないように工夫をしたり、児童にとって身近な人材を活用したりすることで、児童の興味・関心を高める。
- ⑦ 自尊感情を守り、自信を強めよう  
児童ができそうな活動からスタートし、必ずできる活動で終わることで成功体験を積み重ねるとともに、その能力について励ましを与える。
- ⑧ 児童間の協力を促進しよう  
グループで協力しなければ完成できないような活動を設定し、共通の目標に向かって、グループの一人一人が役割を担うように工夫する。

## 4. 肯定的な自己評価を促進する

- ⑨ 次につながる評価をしよう  
振り返り際には、活動の喜びや充実感を味わわせるとともに、児童による自己評価を実施することで、児童が自分自身を適切に評価できるという指導者からの信頼を間接的に伝えることになる。  
また、外国語で話すことはとても難しいということを常に念頭に置きながら、一生懸命努力して話したことをいっぱいほめることで、満足感を与え、自尊心や自信につなげる。

### 《参照》

鈴木 渉 『小学生を英語嫌いにならない工夫 一第二言語習得研究の視点から一』

大修館書店

ゾルタン・ドルニエイ、米山朝二・関昭典訳 『動機づけを高める英語指導ストラテジー35』

大修館書店

